

## 派 遣 報 告 書 ( 報 告 者 : 中 屋 敷 大 )

大会名	第3回全九州総合バスケットボール選手権大会
開催地	福岡県
日 時	令和 7年 11月 15日 (土) ~ 16日 (日)
担当ゲーム1	(男子) 浦上自動車 (長崎) vs 沖縄ゼネラル (沖縄)
相手審判	CC: 田中 洋介 (福岡) U1: 金岩 貴之 (佐賀) U2: 中屋敷 大 (大分)
(担当ゲーム1) Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム情報の確認 (パンフレットを見ながら他県からの情報をもとにした選手の特徴の把握)</li> <li>・映像を見ながらクルーのプライマリーやアングルの取り方の確認</li> <li>・コフィンコーナーでのメカニクスの確認</li> </ul>	
(担当ゲーム1) Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイコンタクトをとりながらトラブルなくゲームを終えることができた</li> <li>・審判を欺こうとするプレーに対しては早めのフェイクをいれることができた</li> <li>・T0の請求が遅い場面があり、認められないことをベンチに説明し再開することに時間がかかりすぎてしまった。HCが認識違いであったので、わかるプレイヤーを見つけその人を通じて説明してもらうなどのやり方もあると思った。</li> <li>・キープレイヤーへのファウルの付け方はクルーとして共通の基準で吹くことができた</li> <li>・トリプルコールが数回あり、クルーがボール中心になっている時間があつた</li> </ul>	

担当ゲーム2	(男子) 日本経済大 (福岡) vs Red Monsters (鹿児島)
相手審判	CC: 佐久間 飛人 (沖縄) U1: 中屋敷 大 (大分) U2: 金岩 貴之 (佐賀)
(担当ゲーム1) Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム情報の確認 (過去の経歴やこれまでに吹いたときの選手の特徴の確認)</li> <li>・ヘルプDFの目の当て方の確認</li> <li>・外国籍同士のマッチアップやそこに対してのダブルチームの目の当て方の確認</li> </ul>	
(担当ゲーム1) Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・判定基準のところと同じチームに対してイリーガルスクリーンを2つ取った。そのことに対して相手チームへのスクリーンに対してのアピールが多くなった。もう少しHCとのコミュニケーションを取り、わかる説明をショート&amp;クリアに伝える。T0やO0Bの時など少し時間をかけられるときにこちらの見解と協力をお願いするなどできれば良かった。</li> <li>・1試合を通して3人でブレることなく判定をし続けることができたのは良かった</li> <li>・ショットクロックがリセットになった場面で、メインタイマーが記憶から飛びショットクロックで訂正をしたので正確性に欠ける場面があつた。もう一度セルフトークをするなどして忘れない工夫をしていかないといけないと感じた。</li> </ul>	

担当ゲーム3	(男子) 日本経済大(福岡) vs 九州電力(福岡)
相手審判	CC: 中屋敷 大(大分) U1: 比嘉 涼太(沖縄) U2: 藪崎 康平(熊本)
(担当ゲーム1) Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム情報の確認</li> <li>・プライマリーの確認・アングルで飛び込むための準備</li> <li>・アイコンタクトを取りながらクルーで協力、処置ミスゼロへ繋げる</li> </ul>	
(担当ゲーム1) Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・終始チームファウルが積む展開ではあったが、3人で明らかなものを積み上げることができた</li> <li>・TF 後の再開も3人で確認を行い正しい処置を取ることができたが、もっと3人ででの分担は改善の余地があった</li> <li>・ダブルコールが多く、もう少しプライマリーに判定を任せる気持ちの余裕を持つ必要があると感じた</li> <li>・ゲームコントロールを意識するならば、留学生へのリバウンドに対する守り方の変化を感じ取り、早めに判定をする。それも続けてアングルを持っているのならば鳴らす勇気を持つ必要があると感じた。</li> </ul>	

<b>今大会に参加しての感想など</b>
<p>この九州総合はカテゴリーが違うチームの対戦があり、コンタクトの基準やプレーの質、体力、人数などの違いがある大会である。選手が何をしようとしているのか、どんな意図があるのか、インテンシティの把握など、ゲーム中に感じないといけない場面が多く、少し力不足を感じた大会であった。今の自分の課題は1試合を通してどのようなゲームコントロールをしていくかである。それを達成させるためにはプライマリーに委ねながらも、時には、アングルを持っているのであれば勇気をもって飛び込むなどのバランス、また、それを継続した判定ができる持続力が必要である。判定へのアピールやコミュニケーションなど様々なノイズが入る中での自分のブレない心。これを今後強くしていく必要があると感じた。</p> <p>今回の講評で講師の方から、「迷った時には原点に戻る」ブラッシュアップに目が行きがちだが、リビルドに意識をし、もう一度ベーシックの理解に努めたいと思った。</p> <p>今回、派遣してくださった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し報告とさせていただきます。</p>